

競 技 注 意 事 項

1. 競技規則について

本大会は、2025 年度日本陸上競技連盟規則、ならびに本大会申し合わせ事項により実施する。

2. 札幌市円山陸上競技場使用上の注意

- 1) 当該種目競技者以外は、競技エリアへの立ち入りを禁止する。
- 2) 練習場所については、本競技場にサブトラックがないため、トラック外側のスペースを使用してよい。
ただし、ホームストレートの使用は禁止する。
- 3) 男女 100m、200m 実施中にバックストレートを練習場所として開放する。
開放時間については当日アナウンスする。
- 4) 開門時間は、**審判 6:30、開催協力校 7:00、一般入場 7:10** とする。
- 5) 朝のトラックを使用しての練習は、**8:45（競技開始の 15 分前）** までとする。
- 6) **朝のフィールド種目の練習に関しては行わないこととする。**

3. 点呼・棄権について

- 1) 競技者は指定された時間までに 1 次点呼（○付け）を行い、その後、各競技開始場所に直接集合すること。1 次点呼（○付け）・現地集合時刻は以下の通りとする。
ただし、共通男女 1500m については**現地集合を 1500m スタート地点でなく、ゴール地点において行い、**
荷物はゴール地点に置いたままとする。

	1 次点呼	現地集合時間
トラック競技	競技開始 40 分前	競技開始 20 分前
フィールド競技（棒高跳を除く）	競技開始 40 分前	競技開始 30 分前
棒高跳	競技開始 70 分前	競技開始 60 分前

- 2) 1 次点呼（○付け）場所は、**競技場内 100m スタート側の用器具庫前**に設ける。
特に 100m が行われている際にはスタートの妨げにならないよう、大声での会話は控えること。
- 3) 男女 10000mW、男女 5000m は、シューズの厚さ検定と自身のレーンナンバーの書かれたビブスの配布をもって 1 次点呼とする。
その他の競技は、1 次点呼場所にて掲示されたスタートリストへの○付けをもって 1 次点呼とする。
- 4) 指定された時間までに 1 次点呼（○付け）を行わない、または指定された時間に競技開始場所にいなかった競技者は当該競技種目を棄権したものとみなし処理する。
- 5) 代理人による点呼は原則として認めない。
ただし、競技者が他の種目に出場中の場合のみ代理人による点呼を認める。その場合はその旨を競技者係にあらかじめ伝えておくこと。
- 6) リレー種目は、オーダー用紙（本部受付に用意）に走順・ナンバー・名前を記入し、1 次点呼（○付け）終了時刻の 1 時間前までに競技者係に提出すること。リレーメンバーの全員での点呼は行わず、オーダー提出後は競技開始の 20 分前までに各走者ごとに現地にて集合すること。
- 7) 棄権する場合は、1 次点呼の締め切り時刻までに競技者係まで申し出ること。

4. アスリートビブスについて

- 1) 学連に登録した競技者は、各自の学連ビブスを使用する。**2025 年度のものを使用すること。**
学連ビブスは受付の際に配布するため、大学ごとに取りに来ること。

- 2) 中学生・高校生はそれぞれ中体連・高体連の割り当て番号によるビブスを使用すること。
- 3) 一般参加者は各登録陸協の割り当て番号によるビブスを使用すること。
- 4) エントリーの際に番号の入力がなかった参加者には主催者側で割り振っている。ビブス番号の変更については大会前日 5/5(金)12:00 までにメールにて団体名・名前・誤ビブス No・正ビブス No を送ること。
- 5) **腰ナンバー標識は各個人が用意したものを使用する。**個人トラック種目出場者については右側にのみつける。4×100mR については第 4 走者のみ右側につける。
- 6) 男女 10000mW、男女 5000m に出場する選手は、1 次点呼の際に配布するアスリートビブスを体の前後につける。女子 10000mW に出場する選手は、自身のレーンナンバーに 20 を加えたものをアスリートビブスとして使用する。

5. シューズについて

- 1) 各競技者は日本陸上競技連盟規則 TR5 に基づいたシューズを着用すること。

以下の表は日本陸上競技連盟陸上競技規則より抜粋した靴底の最大の厚さである。これ以上の厚さのシューズで出走することはできず、仮に基準より厚い靴で競技を行った場合は競技規則に基づいて失格となるので注意すること。

種目	靴底の最大の厚さ	要件・備考
フィールド種目 (三段跳を除く)	20mm	全投てき種目と高さを競う跳躍種目および三段跳を除く、長さを競う跳躍種目に適用。全フィールド種目で、靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
三段跳	25mm	靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
ハードル種目を含む 800m 未満のトラック種目	20mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。
障害物競走を含む 800m 以上のトラック種目	25mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。

- 2) 靴底の厚さ計測を行うため、3000m 以上の種目に参加する競技者は全員必ずレースで使用するシューズを 1 次点呼場所に持参しシューズの厚さ検定を受けること。1 次点呼を兼ねているため、検定を受けなかった場合は棄権として処理されるので注意すること。
- 3) 特に中学生に関しては履いているシューズの厚さが規定を満たしていないことが多々あるため不安な場合・スパイク以外を使用する場合は必ずシューズの厚さ検定を行うこと。
- 4) やり投げにて旧規格のスパイク（つま先側がかかとよりも厚いもの）を使用する場合は、1 次点呼の際にチェック欄にチェックを入れること。旧規格のスパイクで競技を行っても公認となるが大会記録、学生記録等の認定はされない。ただし、1 次点呼にて申告を行わずに競技を行った場合は失格となるので必ず申告をすること。

6. 競技の抽選・番組編成について

トラック競技のレーン順、フィールド競技の試技順はアスリートランキング記載の順による。

7. 用器具について

- 1) 競技に使用する用器具は、すべて主催者側が用意したものを使わなければならない。
ただし、投擲物は1次点呼終了時刻1時間前までに本部付近で各々検査を受けて許可されたものに限
り、個人所有のものを使用することができる。この投擲物は、他の競技者も使用できる。
- 2) 投擲種目については、主催者が用意する投擲物は砲丸、円盤、ハンマー、やりである。
- 3) 滑り止め（炭酸マグネシウム）は、主催者側では用意しない。必要に応じて各個人が個別に持参するこ
と。

8. トラック競技について

- 1) すべて写真判定とするが、万一、機器が故障し復旧しない場合は、手動計時に切り替えて継続する。
- 2) 次の種目は、競技進行に遅れを生じさせる恐れがある場合のみ、次の条件で打ち切ることがある。制限
時間は以下のとおりとする。

男子 5000m	25 分 00 秒	女子 5000m	30 分 00 秒
----------	-----------	----------	-----------

9. フィールド競技について

- 1) 走幅跳・三段跳・投擲種目は、全員が3回の試技を行い、その後各区分のTop8のみ1回試技を行う。
- 2) フィールド競技における競技場内での練習は、すべて競技役員の指示に従うこと。
- 3) 跳躍競技でのバーの上げ方は下記のとおりとするが、状況により変更することもあり得る。

種目	練習	試技	
男子 走高跳	1m55 1m85	1m55 より 5cm	1m90 より 3cm
女子 走高跳	1m35 1m50	1m35 より 5cm	1m60 より 3cm
男子 棒高跳	2m30 2m50	2m40 より 20cm	3m80 より 10cm
女子 棒高跳	2m20 2m80	2m20 より 20cm	2m80 より 10cm

- 4) 三段跳の踏切板は、男子は砂場から 11m、女子は砂場から 9m の位置に設置する。
- 5) 円滑な競技進行のため、試技を行う際には制限時間を遵守すること。

10. 抗議について

- 1) 競技進行中に起きた競技者の行為、または競技成績に関する抗議は、その競技者あるいはチームの代表
者により結果が正式発表（アナウンス）されてから 30 分以内（同一日に次のラウンドが行われる競技
では、その結果が正式に発表されてから 15 分以内）に、総務員を通して口頭で審判長になされなけれ
ばならない。時間以内に申し出がなければ、何ら問題はなかったものとみなされる。
- 2) 抗議に対して審判長は速やかに裁定する。その裁定を不服とし、さらに抗議する場合は抗議申立書と預
託金 10,000 円を添えて上訴する。この預託金は抗議が受け入れられなかった場合は没収される。
- 3) この間の事務処理は総務員が行い、抗議者は大会本部で待機する。

11. 撮影について

- 1) 競技者（選手）がカメラで撮影されることによって嫌悪や不安に感じられる場所からの撮影は禁
止する。また、撮影をしている場所によっては不審と判断された場合、競技役員が注意・指導、撮影内
容の確認をする場合がある。
- 2) 参加者による撮影に関しては、

①所属団体（学校・クラブチーム）がわかる服装をしているもの（学生に限る）

②団体受付にてまとめて団体代表者に渡す「撮影許可証」を首から下げているもの

のどちらかの場合のみ許可する。学生の保護者や関係者などに関しては、関係団体より撮影許可証を借りること。

12. その他

- 1) 競技者の衣類の管理は、すべて各自で行うこと。役員・補助員による運搬は行わない。
- 2) 盗難・紛失について、主催者で受領した物品については一時保管するが、その他のものについては一切責任を負わない。なお、主催者で受領した物品等は大会本部で管理する。
競技中に発生した傷害、疾病についての応急処置は主催者側で行うがそれ以降の責任は負わない。ただし、2025年度公益社団法人日本学生陸上競技連合普通会員は、原則としてスポーツ安全保険に加入しているので、この保険が適用される場合がある。
- 3) 駐車場は競技役員・北海道学連加盟校以外は基本的に駐車できない。GW 期間中であるため、近隣の有料駐車場も開いていない可能性が高いため、各自公共交通機関で来場するようご協力をお願いいたします。
近隣駐車場に駐車できない大型バス・棒高跳のポールの輸送に必要な車両については特別に許可をする場合があるためメールにて問い合わせること。
動物園・円山公園の混雑により周辺に交通規制が敷かれるため、詳細は北海道学連 HP・円山動物園 HP より確認すること。
- 4) 大会期間中に出了ゴミは、必ず各自で持ち帰ること。
- 5) 不審者・不審物等を発見したら、大会本部まで連絡すること。
- 6) その他、不明な点は大会本部まで問い合わせること。